

高等学校地歴・公民科科目の在り方に関する特別チームにおける検討事項

1. 高等学校の地理歴史科、公民科に置く新科目の内容の検討について

(1) 「歴史総合（仮称）」

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか
- ② 歴史の転換等を捉えた学習の在り方
 - ・ 歴史の転換期の軸
 - ・ 学習対象となる時代
- ③ 日本と世界の動きの関連付け

(2) 「地理総合（仮称）」

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか
- ② 地理教育に求められる今日的要請への対応

(3) 「公共（仮称）」

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか
 - ・ 様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論
- ② 公民教育に求められる今日的課題への対応

2. 高等学校地理歴史科、公民科に置く科目間の関係の整理（高等学校における各科目の標準単位数を含む）について

(1) 「歴史総合」と「地理総合」の地理歴史科としてのまとめ

- (2) 新設する科目（「歴史総合」「地理総合」「公共」）について、高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計（高大接続の観点を含む）

3. 小・中学校社会科等と高等学校地理歴史科、公民科との内容の系統性について

- (1) 小学校社会科・中学校社会科の各分野（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）と高等学校の関係教科・科目の内容の系統性

4. その他

- (1) 適切な指導がなされるための要件（周知・広報、研修等）

社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける検討事項

1. 社会・地理歴史・公民科を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・社会・地理歴史・公民科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・特にii)に関わって、どのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むかについて
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた社会・地理歴史・公民科において育成すべき資質・能力及び内容の系統性（例えば、小・中学校における世界に関する学習の扱い、政治的教養を育むための教育の扱いなど）について
 - ・高等学校における新設科目等の具体的な内容について
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき社会・地理歴史・公民科の指導等の改善充実の在り方について
3. 資質・能力の育成のために重視すべき社会・地理歴史・公民科の評価の在り方について
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ（及び論点整理補足資料スライド26）参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

① 社会的な見方や考え方をういて、社会の在り方や社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力

・ 社会の在り方や、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察できる			
・ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる			
・ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多角的に考察できる			

② 社会的な見方や考え方をういて、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想する力

・ 社会に見られる複雑な課題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる			
・ 社会に見られる課題を把握して、複数の立場や意見を踏まえて、解決について選択・判断できる			
・ 社会に見られる課題を把握して、解決に向けて自分たちにできることを選択・判断できる			

③ 考察したこと、構想したことを説明する力

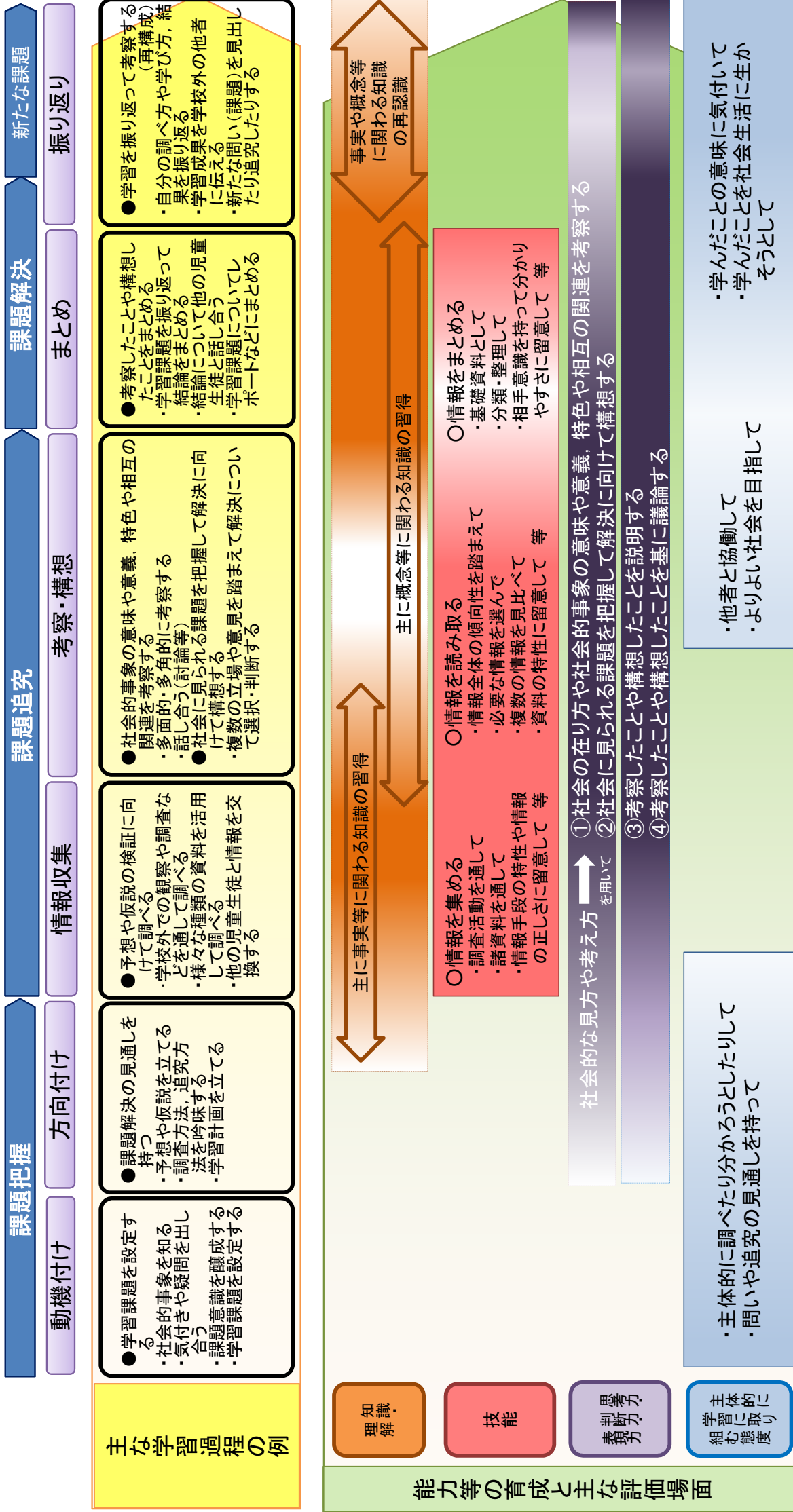
・ 適切な資料・内容や表現方法を選び、社会的事象についての自分の考えを効果的に説明できる			
・ 主旨が明確になるように内容構成を考え、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			
・ 根拠や理由を明確にして、社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			

④ 考察したこと、構想したことを基に議論する力

・ 合意形成を視野に入れながら、社会的事象について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論できる			
・ 他者の主張を踏まえたり取り入れたりして、社会的事象についての自分の考えを再構成しながら議論できる			
・ 他者の意見につなげたり、立場や根拠を明確にしたりして、社会的事象についての自分の考えを主張できる			

* 参考 学習の見通しを持ち追究の結果を評価する力

・ 追究の過程や結果を評価し、不十分な点を修正・改善することができる			
・ 追究の結果を振り返り、学んだことの成果等を自覚できる			
・ 学習問題（課題）を把握し、追究の見通しを持つことができる			



■学習過程全体について留意すべき点■

- 各過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと
- 学習活動のつながりと学びの広がり(深い学び、対話的な学び)を意図した、単元の構成の工夫等が望まれること
- 社会的対象については、児童生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが重要であること。その際、特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど、特定の見方や考え方に偏った取扱いにより、児童生徒が多面的・多角的に考察し、事実を客観的に捉え、公正に判断することを妨げることのないよう留意すること。また、客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意すること

社会的事象等について調べまとめる技能（たたき台）

技能の例（小・中・高等学校）		
情報収集する技能	事象に関する情報を収集する技能	【1】調査活動を通して ○野外調査活動 ・調査の観点（数、量、配置等）に基づいて、現地の様子や実物を観察し情報を集める ・景観のスケッチや写真撮影等を通して観察し、情報を集める ・地図を現地に持って行き、現地との対応関係を観察し、情報を集める ○社会調査活動 ・行政機関や事業者、地域住民等を対象に聞き取り調査、アンケート調査などを行い、情報を集める 【2】諸資料を通して ○資料の種類 ・地図（様々な種類の地図）や地球儀から、位置関係や形状、分布、面積、記載内容などの情報を集める ・年表から、出来事やその時期、推移などの情報を集める ・統計（表やグラフ）から傾向や変化などの情報を集める ・新聞、図書や文書、音声、画像（動画、静止画）、現物資料などから様々な情報を集める
	情報を読み取る技能	【1】情報全体の傾向性を踏まえて ・位置や分布、広がり、形状などの全体的な傾向を読み取る ・量やその変化、区分や移動などの全体的な傾向を読み取る ・博物館や郷土資料館等の展示品目の配列から、展示テーマの趣旨を読み取る 【2】必要な情報を選んで ○事実を正確に読み取る ・形状、色、数、種類、大きさ、名称などに関する情報を読み取る ・方位、記号、高さ、区分などを読み取る（地図） ・年号や時期、前後関係などを読み取る（年表） ○有用な情報を選んで読み取る ・学習上の課題の解決につながる情報を読み取る ・諸情報の中から、目的に応じた情報を選別して読み取る
	情報をまとめる技能	【1】基礎資料として ・聞き取って自分のメモにまとめる ・地図上にドットでまとめる ・数値情報をグラフに転換する（気温図など） 【2】分類・整理して ・項目やカテゴリなどに整理してまとめる ・順序や因果関係などで整理して年表にまとめる ・位置や方位、範囲などで整理して白地図上にまとめる ・相互関係を整理して図（イメージマップやフローチャートなど）にまとめる ・地理情報システム（GIS）などを用いて、デジタル化した情報を統合したり、編集したりしてまとめる
その他の		
○模擬体験などの体験活動を通して人々の仕事などに関する情報を集める ・博物館や郷土資料館等の施設、学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して映像、読み物や紀行文、旅行経験者の体験記など様々な情報を集める ・コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、目的に応じて様々な情報を集める 【3】情報手段の特性や情報の正しさに留意して ・資料の表題、出典、年代、作成者などを確認して情報を集める ・情報手段の特性に留意して情報を集める ・情報発信者の意図、発信過程などに留意して情報を集める 【3】複数の情報を見比べて ・異なる情報（時期や地域、範囲など）を比較して読み取る ・同じ事象に関する表現（グラフや文章など）の違いを比較して読み取る ・異なる情報（地形条件と土地利用の様子など）を関連付けて読み取る ・異なる資料（年表と地図、グラフと地図など）の情報を比較したり関連付けたりして読み取る ・表し方の異なる同種の資料（複数の地図、複数のグラフ、複数の新聞など）を比較したり関連付けたりして読み取る 【4】資料の特性に留意して ・地図の主題や示された情報の種類の踏まえて読み取る ・歴史資料の作成目的、作成時期、作成者を踏まえて読み取る ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る 【3】相手意識を持って分かりやすさに留意して ・主題に沿ってまとめる ・レイアウトを工夫してまとめる ・数値情報を主題図に変換する（階級区分図など）		

国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者を目指す公民的な資質・能力の育成

社会, 地理歴史, 公民で獲得する 知識・理解, 技能	社会, 地理歴史, 公民で養う 思考力・判断力・表現力等	社会, 地理歴史, 公民で養われる 学びに向かう力・人間性
○ 社会や社会的事象についての知識・理解 ○ 社会的事象等について調べまとめる技能	○ 社会的な見方や考え方をを用いて, 社会的事象や社会に見られる課題について考察・構想する力 ○ 考察・構想したことを説明・議論する力	○ 学習対象や課題解決への主体的・意欲的な態度 ○ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など

* 丸番号は便宜的に付けたもの

① 収集し, 読み取った情報を組み合わせて
考察・構想し, 説明・議論する

② 社会的事象の見方や考え方に沿って情
報を収集する, 読み取る, まとめる

○ 社会的事象等について調べまとめる技能
(社会的事象に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技能)

○ 社会生活に関する知識・理解
○ 我が国や世界の地理に関する知識・理解
○ 我が国や世界の歴史に関する知識・理解
○ 現代社会に関する知識・理解

⑩ 技能を生かして主体的に調べる

○ 時間(歴史的), 空間(地理的), 相互関係(事象, 人, 社会)に着目して社会的事象を見出し,
社会の在り方や, 社会的事象の意味や意義, 特色や相互の関連を考察する力,
社会に見られる課題の解決に向けて構想(選択・判断)する力
○ 考察したことや構想したことについて, 説明したり議論したりする力

⑤ 理解した概念, 理論を使って
考察・構想し, 説明・議論する

⑥ 考察・構想することで理解できる
⑦ 見方や考え方をを用いて概念を形成する

⑧ 学んだことを社会生活に生かそうとすることで
「社会に参画しようとする態度」が養われる

⑨ 主体的に調べ知識を獲得する

③ 意欲的に考察・構想し, 説明・議論する

④ 社会に見られる課題を意欲的に解決しようとする
ことで「社会に参画しようとする態度」が養われる

○ 学習対象(社会や社会的事象)について主体的に
調べたり分かろうとしたりする態度

○ 課題(学習上の課題, 社会に見られる課題)を意欲
的に解決しようとする態度

○ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養され
る自覚や愛情など

社会，地理歴史，公民における評価の観点等（たたき台）

社会，地理歴史，公民で獲得する 知識・理解，技能	社会，地理歴史，公民で育成する 思考力・判断力・表現力等	社会，地理歴史，公民で養われる 学びに向かう力・人間性
知識・理解，技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○社会的対象について（～を／～であると）理解し， その知識を身に付けている ・主として事実等に関わる知識 （用語・語句などを含める） ・主として概念等に関わる知識 （特色，意味，理論など） ○社会的対象等を調べる技能（社会的対象に関 する情報を収集する・読み取る・まとめる技能）を 身に付けている ・情報全体の傾向性を踏まえて ・必要な情報を選んで ・複数の情報を見比べて ・資料の特性に留意して （例：情報を読み取る技能の場合）	○社会的な見方や考え方を用いて，社会的対象の 様子や仕組みなどを見出し，社会の在り方や，社 会的対象の意味や意義，特色や相互の関連を考 察している ○社会的な見方や考え方を用いて，社会に見られ る課題を把握し，その解決に向けて構想している ○考察したことや構想したことについて，説明したり 議論したりしている	○学習対象（社会や社会的対象）について主体 的に調べたり分かろうとしたりしている ・問いや追究の見通しを持って ・振り返り，学んだことの意味に気付いて ・身に付けた追究の視点を新たな問いに生か して ・学んだことを社会生活に生かそうとして ○課題（学習上の課題，社会に見られる課題）を 意欲的に解決しようとしている ・粘り強く（試行錯誤して） ・他者と協働して ・よりよい社会を目指して ○学習状況を分析的に捉える評価になじまず， 一人一人の良い点や可能性，進歩の状況に ついて評価する個人内評価が適当である部分 があることに留意が必要

平成28年2月24日
中教審／総則・評価特別部会
【資料3－1】より

各教科等の評価の観点のイメージ（案）

観点（例） ※実際に設定する各教科の観点は，教科の 特質に対応して検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨の イメージ（例） ※具体的な記述については， 各教科の特質を踏まえて検討	（例） ○○を理解している／○○の知識 を身に付けている ○○することができる／○○の技 能を身に付けている	（例） 各教科の特質に応じ育まれる見方や考 え方を用いて探究することを通じて，考 えたり判断したり表現したりしている	（例） 主体的に知識・技能を身に付けたり，思 考・判断・表現をしようとしていたりしている

社会，地理歴史，公民における教育のイメージ（たたき台）

【高等学校】

地理歴史科

- ◇広い視野に立って，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質・能力を養うために，社会的な見方や考え方をを用いて以下の三つの資質・能力を育成する。
- 日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色について理解させるとともに，調査や諸資料から，社会的事象に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
- 地理や歴史に関わる諸事象の意味や意義，特色や相互の関連性について，概念等を活用して考察したり，構想したりする力を養うとともに，考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法等を選び効果的に説明したり，議論したりする力を養う。
- 地理や歴史に関わる事象について主体的に調べたり分かつたりする態度や，学習上の課題，社会に見られる課題を意欲的に追究したり探究したりしようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。

【中学校】社会科

- ◇広い視野に立って，グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者を目指す公民的な資質・能力を養うために，社会的な見方や考え方をを用いて以下の三つの資質・能力を育成する。
- 我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係に関して理解させるとともに，調査や諸資料から，社会的事象に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
- 社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題について公正に判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
- 社会的事象について主体的に調べたり分かつたりする態度や，課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。
- 主体的に社会の形成に参画しようとして，資料から読み取った情報を基にして社会的事象について考察し表現したりするなどの課題解決的な学習の充実を図る。
- ◎地理的分野では，地理的技術の育成を一層重視するとともに，持続可能な社会づくりの観点から様々な課題を考察させ，歴史的分野では，グローバル化に対応する観点から世界の歴史の扱いを充実させ，公民的分野については，社会参画への手掛かりを得させるために身に付けた概念を現実の社会的事象と関連付けて理解させる指導の充実を図る。

【小学校】社会科（第3～6学年）

- ◇グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者を目指す公民的な資質・能力を養うために，社会的事象の見方や考え方をを用いて以下の三つの資質・能力を育成する。
- 地域や我が国の地理的環境，社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化，それらと人々の生活との関連について，社会的事象等を調べまとめる技能を活用して調べて，社会生活について理解できるようにする。
- 社会的事象の特色や意味などについて多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して社会への関わり方を選択・判断する力，思考・判断したことを表現する力を育てるようにする。
- 社会的事象について主体的に調べたり知ろうとして，課題を意欲的に解決しようとする態度を育てるとともに，多角的な考察や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情，我が国の国土や歴史に対する愛情，地域社会の一員としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚を育てるようにする。
- 社会的事象から学習問題を見出し，問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し，追究結果を振り返るなど，問題解決的な学習の充実を図る。
- ◎世界の国々との関わりや我が国の政治の動きへの関心を高める学習，社会に見られる課題を把握して，社会の発展を考える学習の充実を図る。災害における地方公共団体の働き，地域の人々の工夫や努力，地理的・歴史的観点を踏まえた災害に関する理解，防災情報に基づく適切な行動の在り方等に関する指導の充実を図る。

【小学校】生活科（第1，2学年）

- 自分と身近な人々及び地域の様々な場所，公共物などとのかかわりに関心をもち，地域のよさに気付き，愛着を持つことができるようにするとともに，集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え，安全で適切な行動ができるようにする。
- 身近な人々，社会及び自然とのかかわりを深めることを通して，自分のよさや可能性に気付き，意欲と自信をもって生活することができるようにする。
- 身近な人々，社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに，それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて，言葉，絵，動作，劇化などの方法により表現し，考えることができるようにする。

幼児教育

- よいことや悪いことが分かり，相手の立場に立って行動するようになり，自分の気持ちを調整し，友達と折り合いを付けながら，決まりの大切さが分かり守るようになる。
- ◎情報を伝え合ったり，情報に基づき思い合わせたりするようになり，公共の施設を大切にしたり，国旗や国際理解への意識等が芽生えるようになる。
- 身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり，物の性質や仕組み等に気付いたり，予想したり，工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになる。

公民科

- ◇広い視野に立って，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質・能力を養うために，社会的な見方や考え方をを用いて以下の三つの資質・能力を育成する。
- 現代の諸課題を捉え考察し，国家・社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念や理論，様々な主体となるために必要な知識，概念を理解させるとともに，調査や諸資料から，社会的事象や人間としての在り方生き方に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
- 現代の諸課題について個人と社会の関係を着目して考察，追究したり，公正に判断したりする能力を養うとともに，合意形成を視野に入れながら，社会的事象や課題について構想したことを，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論する力を養う。
- 社会の在り方や人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かつたりする態度や，現実社会の諸課題を見出し，その解決に向けて意欲的に考察・構想し，説明・議論することを通して社会に参画し，よりよい社会を形成しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚，自国を愛しその平和と繁栄を図ることの大切さや，各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの自覚を深めるようにする。

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（たたき台）

社会的な見方や考え方は、小・中・高等学校の各「見方や考え方」を総称する呼称であり、社会の在り方や、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察する際の「追究の視点や方法」である

考えられる追究の視点例

○位置や空間的広がりの視点
地域、構成、自然条件、社会的条件 など

○時期や空間的経過の視点
時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性 など

○事象相互、立場相互の関係の視点
工夫、努力、願い、つながり、関わり、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生（共に生きる） など

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎社会的事象の見方や考え方

位置や空間的な広がり
時期や空間的経過
事象相互、立場相互の関係
比較・分類したり総合したりして
国民（人々の）生活と関連付けて

追究の方法

考察
社会的な事象の特色や意味を多角的に考察する力

構想
社会に見られる課題について、自分たちでできることを選択・判断する力

考察、構想した結果、獲得する知識、概念の例

- ・相立工場を中心に部品工場が集まり盛んな地域を形成している
- ・駅の周囲は交通の結節点なので人が多いため商業施設が集まる
- ・国土の地理的位置、地形、台風などの自然条件によって気候は異なる
- ・祭りには地域の豊作や人々のまとまりへの願いから始まった
- ・農作業は機械化により生産効率を向上させてきた
- ・伝統芸能は技や道員が多くなりに継承され今に至っている
- ・地域の安全は、関係機関の未然防止と緊急対応処によって守られている
- ・食料生産は私たちの食生活を支える役割を果たしている
- ・政治には国民生活の安定と向上を図る働きがある
- ・伝統と文化は受け継ぐだけでなく時代に合わせ発展させていく必要がある
- ・世界の人人々と共に生きるには、文化や考え方の違いを認め合い、課題を解決しながら理解していくことが大切である
- ・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること
（具体例：明石市は大阪市の西にあり、その市立天文科学館は日本標準時子午線上の北緯34度38分、東経135度0分にあり）
- ・特定の事象は、地球の表面において特定の範囲に広がること
（具体例：アフリカ大陸の赤道付近の地域には、常緑の密林地帯が広がっています）
- ・地球上の各地は、固有の性格があること
（具体例：広島市の沿岸部は、低平な三角州となっています）
- ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること
（具体例：平野の乏しい日本では、その傾斜地を段々畑や棚田にするなどして利用してきました）
- ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと
（具体例：多くの人口を抱えた大消費地東京の周辺では、新鮮な農産物を生産し、都市の住民に届ける近郊農業が盛んです）
- ・空間的な広がりは、まとまりのある固有の特徴を持つこと
（具体例：中国地方の山間部では、人口減少や高齢化の進む過疎化に悩む地域が広がっています）
- ・地域には、期待されるよりよい姿が求められること
（具体例：地震や台風など自然災害を受けやすい日本では、被害を最小限に食い止めるため、各地の自然環境に応じた、災害に強いまちづくりを進めることが大切です）

◎社会的事象の地理的な見方や考え方

位置や空間的な広がりとりの関わりに着目して社会的な事象を見出し
地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて

追究の方法

考察
社会的な事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察する力

構想
地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

◎社会的事象の歴史的な見方や考え方

推移や変化などに着目して社会的な事象を見出し
比較して相違や共通性を明確にして
原因と結果を関連付けて

追究の方法

考察
時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力

構想
歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

- ・今も世界に広まっているいくつかの宗教は、数千年前に古代からの文明地域の都市を中心におこった
- ・南北朝の争乱や戦国の動乱を経て室町幕府の統一、支配が弱まり、大名による領国支配と民衆による自治的結合が進んだ
- ・近世は、江戸幕府等の強大な力を基盤に安定した全国支配体制が形成され、産業・通商や町人文化が隆盛をみた時代であった
- ・ヨーロッパの市民革命を経て広まった自由と平等を理想とする社会への変革は、欧米のみならず、次第にアジアの近代化にも影響を及ぼした。
- ・東アジアの冷戦の激化は、戦後の日本に対する占領政策や経済復興、国際社会への復帰などに大きな影響を与えた。
- ・歴史上の人物の業績や出来事の歴史的な役割を考察する際には、背景となる時代についての様々な視点が大切である。（具体例：天保の改革の評論については諸説あるが、江戸時代の経済や社会の仕組みの変化や諸外国の接近への対応などの時代状況を広くとらえて考えることが大切である。）

◎現代社会を捉える見方や考え方

現代社会を捉える諸概念に着目して社会的な事象を見出し
それらの事象を現代の社会生活と関連付けて

追究の方法

考察
社会的な事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想
現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

◎現代社会を捉える見方や考え方

現代社会を捉える諸概念に着目して社会的な事象を見出し
それらの事象を現代の社会生活と関連付けて

追究の方法

考察
社会的な事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想
現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

- ・合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要である
- ・財政に關して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察・判断することが大切である
- ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済的、技術的協力などが大切である

◎現代社会を捉える見方や考え方

現代社会を捉える諸概念に着目して社会的な事象を見出し
それらの事象を現代の社会生活と関連付けて

追究の方法

考察
社会的な事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想
現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

◎現代社会を捉える見方や考え方

現代社会を捉える諸概念に着目して社会的な事象を見出し
それらの事象を現代の社会生活と関連付けて

追究の方法

考察
社会的な事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想
現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

- ・合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要である
- ・財政に關して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察・判断することが大切である
- ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済的、技術的協力などが大切である

地理的分野

歴史的分野

公民的分野

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（案）

※科目名は全て仮称である

考えられる追究の視点例		社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	
地理総合	○位置や分布に関わる視点 時間距離、時差 等質（均質、同質）、類似 など	◎社会的事象の地理的な見方や考え方 ・位置や空間的な広がりに関わりに着目して社会的事象を見出し ・地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて	考察 地理に関わる諸事象を地域という枠組みの中で考察する力 構想 そこで生起する課題を解決に向けて構想（選択・判断）する力
	○場所に関わる視点 共通性、多様性 など		
	○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 限異性、防災・減災 など		
地理に関わる探究科目	○空間的相互依存作用に関わる視点 移動性、圏構造（都市圏…）、グローバリ化 など	◎社会的事象の歴史的な見方や考え方 ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し ・比較して相違や共通性を明確にして ・原因と結果を関連付けて	考察 歴史の転換の様子や変化の特色、意味を多面的・多角的に考察する力 構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想（選択・判断）する力
	○地域に関わる視点 規模、格差、変容、持続可能性 など		
	○位置や分布に関わる視点 経済距離、中心性 単一指標、複数指標、総合（指標） など		
歴史総合	○場所に関わる視点 立地、景観、民族性 など	◎社会的事象の歴史的な見方や考え方 ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し ・比較して相違や共通性を明確にして ・原因と結果を関連付けて	考察 歴史の転換の様子や変化の特色、意味を多面的・多角的に考察する力 構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想（選択・判断）する力
	○環境可能性論、環境決定論 など		
	○空間的相互依存作用に関わる視点 中核管理機能、階層性 など		
世界史に関する探究科目	○地域に関わる視点 構造、分化 など	◎社会的事象の歴史的な見方や考え方 ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し ・比較して相違や共通性を明確にして ・原因と結果を関連付けて	考察 歴史の転換の様子や変化の特色、意味を多面的・多角的に考察する力 構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想（選択・判断）する力
	○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代 など		
	○諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など		
地理総合	○諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性 など	◎社会的事象の歴史的な見方や考え方 ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し ・比較して相違や共通性を明確にして ・原因と結果を関連付けて	考察 歴史の転換の様子や変化の特色、意味を多面的・多角的に考察する力 構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想（選択・判断）する力
	○事象相互の関連に関わる視点 原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義 など		
	○年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代 など		
世界史に関する探究科目	○諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など	◎社会的事象の歴史的な見方や考え方 ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し ・比較して相違や共通性を明確にして ・原因と結果を関連付けて	考察 歴史の転換の様子や変化の特色、意味を多面的・多角的に考察する力 構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて構想（選択・判断）する力
	○諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性、多様性、複合性、相互依存性、多元性 など		
	○事象相互の関連に関わる視点 原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義 など		

考察、構想した結果、獲得する知識、概念の例

- ・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること
（具体例：日付変更線は基本的に180度の経線に沿うが、国内の時差を回避するなどの理由で何か所も折れ曲がっている）
- ・地球上の各地は、多様な特徴を持つこと
（具体例：東南アジアの高温多湿な地域では通気性を高めるため、シベリアの凍土地帯では住宅内の熱を逃がすため、いずれも高床式住居が建設されている）
- ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること
（具体例：サハラ砂漠の南に広がるサヘル地域では、過度な放牧や農耕、薪の採取などにより砂漠化が進んだ）
- ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと
（具体例：和歌山に苦しむ東海道上山への食料供給には、人道的な側面とともに政治的混同や周辺諸国への難民流入を防ぐといった影響も考えられる。）
- ・空間的な広がりは、固有の性格を持ち、変容すること
（具体例：奈良造上国には、政治や経済、文化、情報などの機能が首都に一極集中し、地域格差が拡大している国がある）

・いかなる規模の空間においても、そこに所属する人々により、環境を創造しようとする
こと
（具体例：地域が抱えるさまざまな課題を積極的に見だし、地理学習で身に付けた地理的な見方や考え方をを用いて課題の構造を読み解いていくことが重要である）

- ・特定の事象は、地球の表面において特定の範囲に広がること
（具体例：メソコンチネンタルに加盟しながら文化的にはラテンアメリカに属し、南北アメリカ諸国を経済的、文化的に結ぶ回廊となっている）
- ・地球上の各地は、多様な特徴を持つこと
（具体例：大都市の中心では、行政機関や大企業の本社等が集まり、政治や経済の中核管理機能が集約している）
- ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること
（具体例：東南アジアの沖積平野では、モンスーン等の自然条件を生かした集約的な稲作農業が発達し、世界有数の米作地帯となっている）
- ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと
（具体例：都市が拡大していく過程では、社会資本整備の遅れから、住宅や工場の無秩序な展開を招くことがある）
- ・空間的な広がりは、固有の性格を持ち、変容すること
（具体例：シンガポールで複数の言語が公用語となっているのは、複雑な民族間の軋轢を軽減し、多文化主義を推進しようとする役割がある）

・いかなる規模の空間においても、そこに所属する人々により、環境を創造しようとする
こと
（具体例：私たちは、日本を取り巻く諸問題を「環境」、その解決の方向性を見出し、日本の将来像についてよく考えるときにも、世界の繁栄に貢献していくなければならない）

- ・16世紀には、諸大陸を結びつける国際商業が活性化し、アジアの諸帝国が繁栄した。豊かな富を求めてアジアに進出した西欧との交流も盛んに行われた
- ・19世紀の欧米や日本は、工業化や政治変遷の過程を経て、新たな国家のしくみを生み出し、世界と日本のつながりが一層深まった
- ・19世紀のヨーロッパ諸国の進出に対して、日本やアジア諸国においては様々な対応策が生まれ、ナショナリズムが形成された
- ・20世紀には、科学技術やマスメディアが発達し、人・モノ・情報の移動が加速化し、大衆の政治や経済、文化活動への参加が拡大した
- ・市場経済の進展とともに、国内外で富の格差をめぐる問題が顕著となり、富の再分配をめぐる動きが起る一方、国際社会では支配と従属関係が深まった
- ・大戦時における総力戦体制の構築は、戦後の国家と国民、国際秩序の在り方に新たな変化を生み出した
- ・経済開発と環境保全をめぐる問題は、豊かな生活の在り方や人間の生き方を再考させた

・歴史的な諸事象の意味を説明する際は、直接的な因果関係はもちろん、歴史の転換や、他地域との比較よる特徴の抽出などにも留意することが大切である

- ・人類は、世界各地の自然環境に適応し、農耕や牧畜を基礎とした諸文明を形成し、やがて諸地域ごとのまとまりを生み出した
- ・ユーラシアの海・陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が活発化し、新たな地域世界の形成や再編が進んだ
- ・アジアの繁栄や西洋諸国の拡大を背景に、諸地域世界の統合が進み、西洋諸国の工業化は世界の構造的なつながりを生み出した
- ・科学技術の発達と生産力の発展は、地球規模での世界の一体化を加速化させ、世界の相互依存関係を一層深めさせた
- ・19世紀後期から20世紀初期にかけておこった産業構造の変化は、帝国主義政策を生み出し、軍事力に基づく世界分割が進んだ
- ・冷戦の終結後の国際経済の連携の動きは、新たな地域統合をもたらし、新たな国際秩序を構築する動きが生まれた

歴史的な見方や考え方、獲得した知識（概念）を活用して、諸資料に基づいて、複数の立場や意見と踏まえて、自分の考えを論理的に説明すること

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（たたき台）

追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例

考えられる追究の視点例

- 年代の基本に関わる視点
時期、年代、時代区分 など
- 諸事象の推移や変化に関わる視点
継続、発展、時代の転換 など
- 諸事象の特色に関わる視点
相違、共通性、時代性、多様性、地域性、 など
- 事象相互の関連に関わる視点
原因、背景、ねらい、結果、影響、意味、意義 など
- 諸事象の位置付けに関わる視点
論理性、客観性、妥当性 など

- いくつかで、誰によっておこったのか
- ・何が、なぜ、どのように転換したか
 - ・どのような変化が生じたのか
 - ・どのような背景が存在するか
 - ・どのような時代(時期)だったのか
 - ・なぜおこった(何のために)行われたのか
 - ・どのような関係性があいだにせざるのか
 - ・どのような意味や特色があるのか
 - ・どのような影響を及ぼしたのか
 - ・どのような点が現代と関係しているのか
 - ・何が課題として残されたか
 - ・どのような影響を及ぼすと予想できるか
 - ・なぜその判断をしたと考えられるか
 - ・他にどのような選択が可能であったと考えるか
 - ・どのように意義付けられることができるのか

- 人間と社会の在り方を捉える視点
幸福、正義、公正、個人の尊厳、自由、平等、寛容、希少性、機会費用、利便性と安全性、多様性とアイデンティティ など
- 公共的な空間に見られる課題の解決を構想する視点
幸福、正義、公正、協働関係の共時性と通時性、比較衡量、相互承認、適正な手続き、自由・権利と責任、義務、平等、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など

- ・社会を成立させる背景にあるものは何か
- ・社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる考え方は何か
- ・人間としての在り方生き方について考えていくとはどのようなことか

- ・よりよい集団、社会の在り方とはどのようなものか
- ・政治的主体となるとはどのようなことか
- ・経済的主体となるとはどのようなことか
- ・公共的な場づくりや安全を目指す地域域の活性化のために、私たちはどのように関わり、持続可能な社会づくりの主体となればよいのか

- 人間としての在り方生き方を捉える視点
善、徳、愛、利己心、幸福、義務、個人の尊厳、公正、寛容、存在、真理、聖、美 など
- 現代の倫理的諸課題の解決を構想する視点
尊重、畏敬、創造、自由、権利、責任、自立、協働、勤労、相互承認、国際協調、持続可能性 など

- ・自らの人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何か、人間とは何か
- ・他者とどう生き、社会でどう生きていけばよいか、良識ある公民としていかに在るべきか、いかに生きるべきか
- ・人間は何を知ることができるのか、なぜ世界が存在するのか、人間はどのような位置づけで存在するのか
- ・哲学や宗教や芸術が何を問い、どのような答えを見出してきたか

- ・自然科学的理論と倫理的理論との違いはどこにあるか。自然とどのように関わり合って生きればよいか。

- 社会を捉える視点
個人の尊厳、効率、公正、自由、平等、希少性、機会費用、選択、配分、分業、交換、利便性と安全性、多様性とアイデンティティ など
- 社会に見られる課題の解決を構想する視点
対立、協調、効率、公正、比較衡量、具体的な妥当性と法的安定性、相互承認、適正な手続き、自由・権利と責任、義務、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など

- ・政治の意義と機能はどのようなものであるか
- ・経済活動の意義はどのようなものであるか

- ・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方はどのようなものか
- ・グローバル化が進む国際経済にあって、日本経済は今度どのようなことが望ましいと考えるか
- ・地域社会の発展と住民生活の向上のために、国と地方公共団体の関係の在り方や私たちの関わり方について、どのような選択・判断、合意形成を行うか

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎社会的事象の歴史的な見方や考え方

- ・推移や変化などに着目して社会的事象を見出し
- ・比較して相違や共通性を明確にして
- ・原因と結果を関連付けて

追究の方法

考察
日本の歴史の展開、伝統と文化の特色を多面的・多角的、総合的に考察する力

構想
歴史上の人物の行動や事象の意義について、多様な資料を活用して構想(選択・判断)する力

◎人間と社会の在り方を捉える見方や考え方

- ・人間と社会の在り方を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し
- ・それらの事象を選択・判断の基準となる考え方と関連付けて

追究の方法

考察
人間としての在り方生き方、社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想
公共的な空間に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて、社会を形成する主体として構想する力

◎人間としての在り方生き方を捉える見方や考え方

- ・人間としての在り方生き方を捉える諸概念に着目してそれに関わる事象を見出し
- ・それらの事象を選択・判断の基準となる考え方や哲学、宗教、芸術などに関わる理論と有機的に関連付けて

追究の方法

考察
人間としての在り方生き方に関わる事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想
現代の倫理的諸課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

◎社会を捉える見方や考え方

- ・社会の在り方や課題を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し
- ・それらの事象を選択・判断の基準となる考え方や政治、法、経済などに関わる理論と有機的に関連付けて

追究の方法

考察
社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想
社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて構想(選択・判断)、合意形成する力

考察、構想した結果、獲得する知識、概念の例

- ・遺物や遺跡、様々な歴史資料は、現在の我が国の文化や伝統を考察する上で重要な考察の手がかりとなった
- ・日本の古代国家の形成過程の背景の一つには、東アジア世界の変化が存在する
- ・中世の社会では、武士勢力や宗教勢力の拡大や、庶民の台頭など権力の多様化が新しい文化や地域的な際を生み出した
- ・江戸時代初期の経済発展は、町人や富農に文芸の普及や生活文化の上昇をもたらし、文化の担い手を成長させた
- ・18～19世紀前半の経済・産業の成長は、一方で社会の矛盾を深め、新たな社会構造の構築を促し、明治維新へとつながっていった
- ・1920年代の政治や社会に対する評価や要求に変化を生み、1930年代の日本の政治状況に大きな影響を与えた
- ・戦後日本経済の推移は、冷戦の国際状況と密接に関係して展開した

人物や事象の歴史的な意義の判断に際しては、獲得した知識(概念)を活用し、諸資料に基づいて、複数の立場や意見を踏まえ、自分の考えを論理的に説明できることが大切である

- ・今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、様々な立場や文化等を背景にして社会が成立している
- ・「行為の結果における効用として、個人の幸福とともに、社会全体の幸福を重視する考え方」(「行為の結果よりも、)行為の動機となる人間の善悪としての公正などを重視する考え方」)があり、両者ともに活用し、自分も他者ともに納得できる解を見出そうと考えることが重要である

「自分らしい生き方」を問い、自らの体験や悩みを振り返ることを通じて自らを成長させるとともに、人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うことの両者によってよりよい公共的な空間を作り出していくことが大切である

選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用するとともに、個人を起点として、自立、協働の観点から多様性を尊重して持続可能な地域づくりに向けた役割を担う主体となることが大切である

それ自体価値あるよいものを求め、正しい行いを選ぶ賢さとそれを実行する意志の強さを身に付けた徳の高い人間を目指す

- ・正しい行いをするために、利己心をもとにする考え方、幸福と利益をえる限り増やすことを重視する考え方、自由に基つき人権を大切にすることを手掛かりとし、自分自身を深く理解する
- ・自由権の保障とともに不利な立場にある人々への配慮も必要であるという考え方を手掛かりとして公平な社会について考える続ける
- ・存在の不思議への驚きから知識への深い懐疑が生じること、正解が定められなくなること自体に意味がある問いがあり、これを問い考える続けることが大切であることに気付く

倫理で考えるのは「べき」であるため、自然科学で考える「ある」は異なるが、観察した事実を根拠として繰り返された理論を現実の出来事さらに観察し修正しながら、判断と理論を調整していく点において相通じる面もある

- ・政治とは広義には、個人あるいは集団の考え方や意見、利害の対立や衝突を調整したり解決したりすることにより、社会の秩序を維持し統合を図る機能を意味している
- ・経済活動は分業と交換に基づき人間生活の維持・向上のために「行われるものであり、いずれの社会でも、「何をどれだけ」、「どのような方法で」、「誰のために」に生産すべきか、生産された財やサービスのどこをどのような構成員に分配し、いかに消費するかという経済的選択の問題を解決しなければならぬものである

- ・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方を考察、追究する際には、現代政治における個人、政党及び圧力団体の行動、住民運動など現実社会の事象を取り上げ、客観的な資料を基に様々な角度から主体的に考察することが必要である
- ・個人の尊厳、基本的人権の尊重を基盤に、理論と現実との相互関連に留意しながら持続可能な地域社会となる在り方を考察、追究することが大切である

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力・人間性 (どのように社会、世界と関わりよりよい人生を送るか)
小学校社会	・社会生活についての知識・理解 (地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕事や働き，地域や我が国の歴史，それらと人々の生活との関連) ・社会的事象について調べまとめる技能 (社会的事象に関する情報を適切に集める・読み取る・まとめる技能)	・社会的事象の見方や考え方の基礎を用いて，社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，社会への関わり方を選択・判断する力 ・思考・判断したことを説明する力	・社会的事象について主体的に調べたり知ろうとしたりする態度 (環境保全，自然災害防止，産業の発展，情報化の進展，先人の業績や文化遺産，我が国の政治の働き，世界の国々との関わり) ・学習問題や社会に見られる課題を意欲的に解決しようとする態度 ・多角的な考察や理解を通して涵養される自覚や愛情など (地域社会の一員としての自覚，地域社会に対する誇りと愛情，我が国の国土に対する愛情，我が国の歴史や伝統を大切にし，国を愛する心情，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚)
中学校社会	・我が国の国土と歴史に関する知識・理解 ・現代社会の政治，経済，国際関係に関する理解 ・社会的事象について調べまとめる技能 (調査や諸資料から，社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能)	・社会的事象の見方や考え方をを用いて，社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題や問題について公正に判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力	・社会的事象について主体的に調べたり分かつたりする態度 ・課題(学習上の課題，社会に見られる課題)を意欲的に解決しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さの自覚)
地理的分野	・我が国の国土及び世界の諸地域における地理に関する知識・理解 (日本や世界の地域構成，日本を含む世界の環境と生活の多様性，州単位の世界地誌，地方単位の日本地誌，身近な地域の調査) ・地図や景観写真などの諸資料から，地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・社会的事象の地理的な見方や考え方をを用いて，事象の特色や相互の関連，意味を多面的・多角的に考察する力 ・地域に見られる課題の解決に向けて，複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力 ・調査したことや思考・判断したことを地図等を用いて説明したり議論したりする力	・日本や世界の諸地域，自分たちが生活している身近な地域に関する社会的事象について主体的に調べたり分かつたりする態度 ・地域の地理的な諸課題を意欲的に解決しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (身近な地域や我が国の国土に対する愛情，世界各地の異なる多様な生活文化を尊重しようとする自覚)
歴史的分野	・各時代の特色を踏まえた我が国の歴史の大きな流れ (直接的な関わりや間接的な影響を及ぼす世界の歴史を含む)に関する理解 (歴史上の人物との文化遺産，伝統と文化の特色，歴史に見られる国際関係や文化交流のあらまし) ・年表などの諸資料から，歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・社会的事象の歴史的な見方や考え方をを用いて，事象の特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力 ・歴史に見られる諸課題について，複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力 ・思考・判断したことについて説明したり議論したりする力	・歴史上の諸事象や身近な地域の歴史，他民族の文化や生活に関する社会的事象について主体的に調べたり分かつたりする態度 ・歴史上の諸事象から見出した課題を意欲的に解決しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (歴史上の人物と文化遺産を尊重することの大切さの自覚，我が国の歴史に対する愛情や国民としての自覚，国際協調の精神)
公民的分野	・現代社会の政治，経済，国際関係に関する知識・理解 (現代社会と文化，現代社会を捉える見方や考え方，市場の働きと経済，国民の生活と政府の役割，人間の尊重と日本国憲法の基本的原則，世界平和と人々の福祉の増大) ・統計や新聞などの諸資料から，現代の社会的事象に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・現代社会を捉える見方や考え方をを用いて，社会的事象を現代の社会生活と関連付けたり，現代の諸課題について公正に判断したりする力 ・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして社会に見られる課題についての自分の考えを再構成しながら議論する力	・現代の社会的事象について主体的に調べたり分かつたりする態度 (社会生活における物事の決定の仕方，現実の政治，個人，企業及び国や地方公共団体の経済活動，現実の国際関係) ・現代社会に見られる課題の解決に向けて意欲的に考察・構想し，説明・議論しようとする態度 (他者と協働して考え，社会に参画しようとする) ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (自国を愛しその平和と繁栄を図ることの大切さ，各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの自覚)

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力・人間性 (どのように社会、世界と関わりよりよい人生を送るか)
高等学校 地理歴史科	・日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関する知識・理解 ・社会的事象等について調べまとめる技能	・社会的事象の地理的な見方や考え方や歴史的な見方や考え方を用いて、地理や歴史に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連性について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決に向けて構想したりする力 ・考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法等を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力	・地理や歴史に関わる事象について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・課題(学習上の課題、社会に見られる課題)を意欲的に追究したり探究したりしようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さの自覚)
地理総合	・地球規模の自然システムや社会・経済システムの理解 ・調査や地図や統計などの諸資料から、地理に関する情報を、地理情報システムなどをを用いて効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・社会的事象の地理的な見方や考え方を用いて、地理に関わる諸事象を地域という枠組みの中で考察したり、そこで生起する課題を解決に向けて構想したりする力 ・考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法等を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力	・地球規模の自然システムや社会・経済システムについて主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・持続可能な社会づくりに向けて、地球的、地域的課題を意欲的に追究しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など
地理に関わる探究科目	・世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容についての理解 ・調査や地図や統計などの諸資料から、地理に関する情報を、地理情報システムなどをを用いて効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・社会的事象の地理的な見方や考え方を用いて、地理に関わる諸事象を系統地理的あるいは地誌的に考察したり、そこで生起する課題を解決に向けて構想したりする力 ・考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法等を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力	・世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・持続可能な社会づくりに向けて、世界や国土の在り方を意欲的に探究しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など
歴史総合	・近現代の歴史の転換に関わる諸事象についての知識 ・近現代の歴史の考察に関わる概念の理解 ・諸資料から歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・社会的事象の歴史的な見方や考え方を用いて、歴史に関わる諸事象と現在とのつながりを多面的・多角的に考察したり、選択や判断について構想したりする力 ・考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法等を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力	・近現代の歴史の転換について、主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・持続可能な社会づくりに向けて、世界や日本の在り方について、歴史の転換を踏まえて、意欲的に追究しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など
日本史に関わる探究科目	・我が国の歴史に関わる諸事象についての知識 ・我が国の歴史の展開について、歴史を構成する諸要素・諸領域から総合的に捉える概念の理解 ・多様な資料から我が国の歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・社会的事象の歴史的な見方や考え方を用いて、我が国の歴史にかかわる様々な分野に着目し、自ら課題を設定して多面的・多角的に考察したり、選択や判断について構想したりする力 ・考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法等を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力	・我が国の歴史の展開について、主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・持続可能な社会づくりに向けて、歴史の展開の総合的な理解を踏まえて、地域や日本、世界の在り方を意欲的に探究しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など
世界史に関わる探究科目	・諸地域世界の歴史に関わる諸事象についての知識 ・諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開の考察に関わる概念の理解 ・諸資料から世界史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・社会的事象の歴史的な見方や考え方を用いて、諸地域世界の歴史の多様性や複合性、相互依存性や多元性に着目して多面的・多角的に考察し、選択や判断について構想したりする力 ・考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法等を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力	・諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開について、主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・持続可能な社会づくりに向けて、広い視野に立って、世界や日本の在り方を意欲的に探究しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力・人間性 (どのように社会、世界と関わりよりよい人生を送るか)
高等学校 公民科	・現代の諸課題を捉え考察し、国家・社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念や理論の理解 ・倫理的主体、政治的主体、経済的主体、法的主体、様々な情報を発信・受信する知的主体、持続可能な社会づくりの主体となるために必要な知識、概念 ・社会的事象等について効果的に調べまとめる技能	・社会的な見方や考え方をを用いて、現代の諸課題について個人と社会の関係に着目して考察、追究したり、公正に判断したりする力 ・合意形成を視野に入れながら、社会的事象や課題について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論する力	・社会の在り方や人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・現実社会の諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、説明・議論することを通して社会に参画し、よりよい社会を形成しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることの大切さや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことなど、我が国及び各国民が協力し合うことの自覚など
公共	・現代社会の諸課題を捉え考察し、国家・社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念的な枠組みの理解 ・倫理的、法的、政治的、経済的主体等となるために必要な知識、概念の理解 ・諸資料から、倫理的、法的、政治的、経済的主体等となるために必要な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・人間と社会の在り方を捉える見方や考え方やや公共的な空間における基本的原理を活用して、現実の社会的事象や現実社会の諸課題について、考察、追究したり解決策を構想したりする力 ・合意形成を視野に入れながら、社会的事象や課題について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論する力	・社会の在り方や人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・現実社会の諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、説明・議論することを通して社会に参画し、よりよい社会を形成しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることの大切さや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことなど、我が国及び国際社会において国家・社会の形成に積極的な役割を果たそうとする自覚など
倫理	・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するために必要な概念や理論の理解 ・諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・人間としての在り方生き方を捉える見方や考え方をを用いて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力 ・現代の倫理的諸課題を解決するために概念や理論を活用し、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・現代の倫理的諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、説明・対話することを通して、他者や社会と積極的に関わりながらよりよく生きる自己を形成しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についてのより深い自覚など
政治・経済	・正解が一つに定まらない、現実社会の複雑な諸課題の解決策を探究するために必要な概念や理論の理解 ・政治や経済などに関わる諸資料から、現実社会の諸課題の解決に必要な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・社会を捉える見方や考え方や、国家・社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる概念を活用して、社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するともに、身に付けた判断基準を根拠に解決策を構想する力 ・構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて議論し、合意形成に向かう力	・社会の在り方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・現実社会の諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、説明・議論することを通して社会に参画し、よりよい社会を形成していく態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、自国を愛しその平和と繁栄を図ることの大切さや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことなど、我が国及び国際社会において、国家・社会の形成により積極的な役割を果たそうとする自覚など

社会，地理歴史，公民における教育のイメージ（たたき台）

【高等学校】

地理歴史科

- ◇広い視野に立って，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質・能力を養うために，社会的な見方や考え方をを用いて以下の三つの資質・能力を育成する。
- 日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色について理解させるとともに，調査や諸資料から，社会的事象に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
- 地理や歴史に関わる諸事象の意味や意義，特色や相互の関連性について，概念等を活用して考察したり，構想したりする力を養うとともに，考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法等を選び効果的に説明したり，議論したりする力を養う。
- 地理や歴史に関わる事象について主体的に調べたり分かつたりする態度や，学習上の課題，社会に見られる課題を意欲的に追究したり探究したりしようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。

【中学校】社会科

- ◇広い視野に立って，グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者を目指す公民的な資質・能力を養うために，社会的な見方や考え方をを用いて以下の三つの資質・能力を育成する。
- 我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係に関して理解させるとともに，調査や諸資料から，社会的事象に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
- 社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題について公正に判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
- 社会的事象について主体的に調べたり分かつたりする態度や，課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。
- 主体的に社会の形成に参画しようとして，資料から読み取った情報を基にして社会的事象について考察し表現したりするなどの課題解決的な学習の充実を図る。
- ◎地理的分野では，地理的技術の育成を一層重視するとともに，持続可能な社会づくりの観点から様々な課題を考察させ，歴史的分野では，グローバル化に対応する観点から世界の歴史の扱いを充実させ，公民的分野については，社会参画への手掛かりを得させるために身に付けた概念を現実の社会的事象と関連付けて理解させる指導の充実を図る。

【小学校】社会科（第3～6学年）

- ◇グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者を目指す公民的な資質・能力を養うために，社会的事象の見方や考え方をを用いて以下の三つの資質・能力を育成する。
- 地域や我が国の地理的環境，社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化，それらと人々の生活との関連について，社会的事象等を調べまとめる技能を活用して調べて，社会生活について理解できるようにする。
- 社会的事象の特色や意味などについて多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して社会への関わり方を選択・判断する力，思考・判断したことを表現する力を育てるようにする。
- 社会的事象について主体的に調べたり知ろうとして，課題を意欲的に解決しようとする態度を育てるとともに，多角的な考察や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情，我が国の国土や歴史に対する愛情，地域社会の一員としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚を育てるようにする。
- 社会的事象から学習問題を見出し，問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し，追究結果を振り返るなど，問題解決的な学習の充実を図る。
- ◎世界の国々との関わりや我が国の政治の動きへの関心を高める学習，社会に見られる課題を把握して，社会の発展を考える学習の充実を図る。災害における地方公共団体の働き，地域の人々の工夫や努力，地理的・歴史的観点を踏まえた災害に関する理解，防災情報に基づく適切な行動の在り方等に関する指導の充実を図る。

【小学校】生活科（第1，2学年）

- 自分と身近な人々及び地域の様々な場所，公共物などとのかかわりに関心をもち，地域のよさに気付き，愛着を持つことができるようにするとともに，集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え，安全で適切な行動ができるようにする。
- 身近な人々，社会及び自然とのかかわりを深めることを通して，自分のよさや可能性に気付き，意欲と自信をもって生活することができるようにする。
- 身近な人々，社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに，それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて，言葉，絵，動作，劇化などの方法により表現し，考えることができるようにする。

幼児教育

- よいことや悪いことが分かり，相手の立場に立って行動するようになり，自分の気持ちを調整し，友達と折り合いを付けながら，決まりの大切さが分かり守るようになる。
- 情報を伝え合ったり，情報に基づき思い合わせたりするようになり，公共の施設を大切にしたり，国旗や国際理解への意識等が芽生えるようになる。
- 身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり，物の性質や仕組み等に気付いたり，予想したり，工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになる。

公民科

- ◇広い視野に立って，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質・能力を養うために，社会的な見方や考え方をを用いて以下の三つの資質・能力を育成する。
- 現代の諸課題を捉え考察し，国家・社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念や理論，様々な主体となるために必要な知識，概念を理解させるとともに，調査や諸資料から，社会的事象や人間としての在り方生き方に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
- 現代の諸課題について個人と社会の関係に着目して考察，追究したり，公正に判断したりする能力を養うとともに，合意形成を視野に入れながら，社会的事象や課題について構想したことを，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論する力を養う。
- 社会の在り方や人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かつたりする態度や，現実社会の諸課題を見出し，その解決に向けて意欲的に考察・構想し，説明・議論することを通して社会に参画し，よりよい社会を形成しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚，自国を愛しその平和と繁栄を図ることの大切さや，各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの自覚を深めるようにする。

高等学校の数学・理科にわたる探究的科目の在り方 に関する特別チーム検討事項

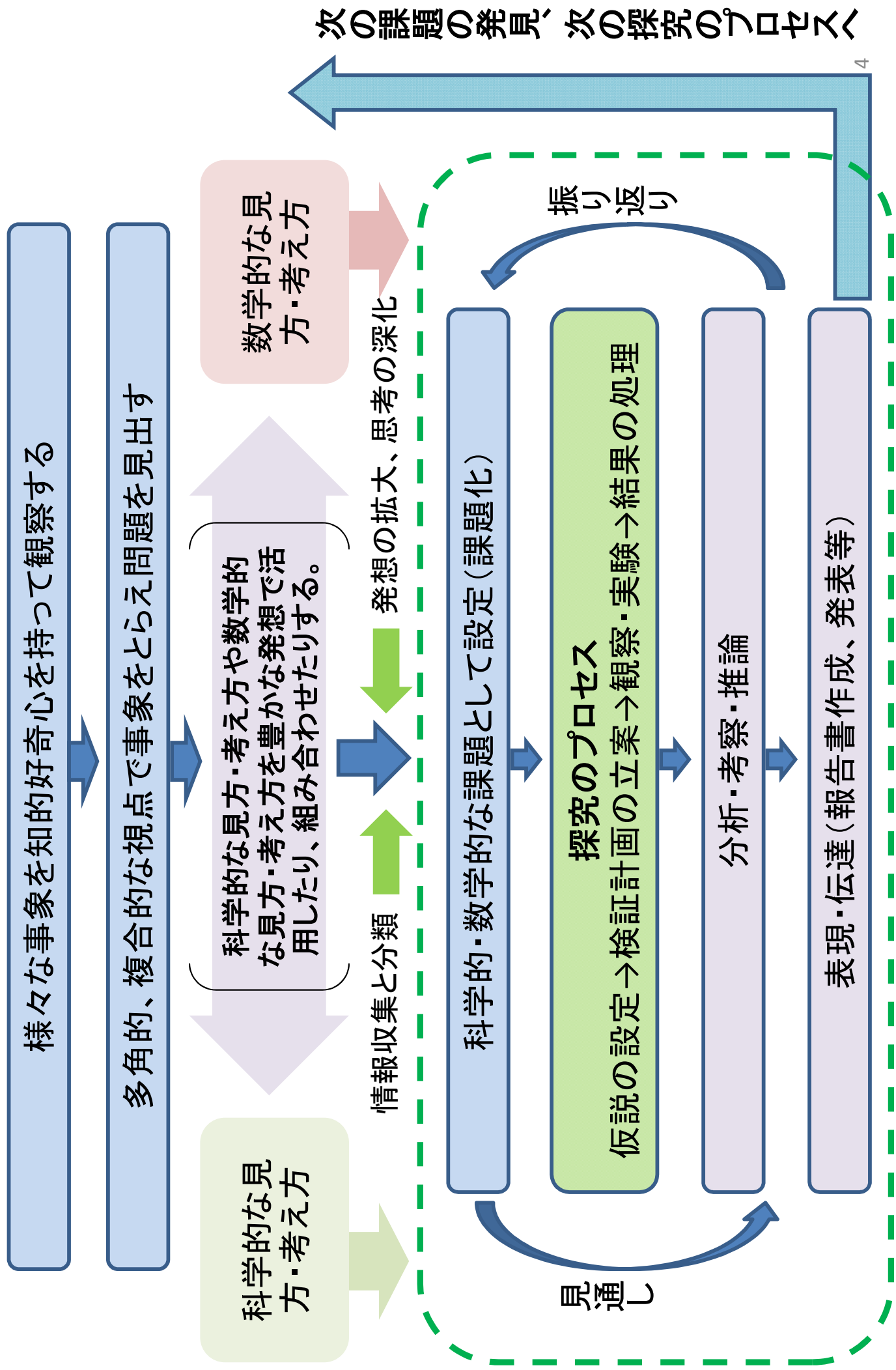
1. 数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を行う数理探究（仮称）で育成すべき資質・能力について
 - ・ 三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
2. 数理探究（仮称）の内容等について
 - ・ 数理探究（仮称）の目標、内容、探究的な活動の対象領域等
3. 数理探究（仮称）の指導方法及び指導に当たっての留意事項等について
4. 資質・能力の育成のために重視すべき数理探究（仮称）の評価の在り方について
5. 数理探究（仮称）の質を高め、普及させるための方策

数学・理科にわたる探究 的科目の在り方について

2. 育成すべき資質・能力(案)

知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
● 探究的な活動を自ら遂行するための知識・技能 例：研究テーマの設定方法 先行研究の調査方法 研究計画の立案方法 研究の進め方 データの処理、分析 研究成果のまとめ方 研究成果の発表方法 についての知識・技能 ● 既に有している知識・技能の活用及び探究を通じて得られる内容に関する知識や探究に関する技能 ● 探究を通して新しい知見を得る意義についての認識 ● 研究倫理（生命倫理等を含む。）についての基本的な理解	● 教科・科目の枠にとられない多角的、複合的な視点で事象をとらえ、科学的・数学的な課題として設定することができ力 ● 科学的な見方・考え方や数学的な見方・考え方を豊かな発想で活用したり、組み合わせた力 ● 多様な価値観や感性を有する人々と議論等を積極的に行い、それを基に多面的に思考する力 ● 探究的な学習を通じて課題解決を実現するための能力 例：観察・実験デザイン力 構想力 実証的に考察する力 論理的に考察する力 分析的に考察する力 統合的に考察する力 文章にまとめる力 発表・表現力	● 様々な事象に対して知的好奇心を持って科学的・数学的にとらえようとする態度 ● 科学的、数学的課題や事象に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度 ● 見通しを立てたり、振り返ったりするなど、内省的な態度 ● 新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度 ● 主体的・自律的に探究を行っていくために必要な研究に対する倫理的な態度

3. 新科目の学習過程のイメージ



4. 新科目の構造について(案)

探究を深める段階の考え方

- 基礎で身につけた資質・能力を活用して自ら課題を設定し、探究活動を行う。
- 課題に関する内容に関する知識や課題を解決するための技能を自ら身につけ、より深い探究活動を志向させる(共通ではない学び)。
- 探究に当たっては、質を高めるため大学・企業等の外部機関を積極的に活用する。
- 実験や分析自体の成否より、試行錯誤し、失敗のリスクも引き受けながら自分たちでやりきる過程を重視する。

実施段階

大学・企業等
からの支援

基礎で学んだことを用いて、自ら課題を設定し、探究活動を実施する。

校内・校外において探究の成果を発表する。

プロセスの例

探究の手法について学ぶ

教員の指導のもと、研究の進め方や分析の手法を考え、選択した課題等の研究を実施する

研究倫理について学ぶ

校内等で成果を発表する

基礎の習得段階の必要性

- 自ら探究プロセスを回し、質の高い深い探究活動を行うためには、そのために必要な資質・能力をあらかじめ身につけておくことが必要。
- 新たな価値の創造に向けて挑戦することの意義等について理解を深めさせることで、主体的に探究に取り組む態度を身につけさせることが必要。
- 研究倫理等についての基本的な知識を身につけさせることが必要。

基礎段階

6. 評価の観点(案)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数理解探究(仮称)	探究的な活動を自ら遂行するための知識及び技能や、研究倫理にかかわる基本的な知識を身に付けている。	・多角的、複合的な視点で事象をとらえ、科学的・数学的な課題として設定することができ。 ・多様な価値観や感性を有する人々との議論や探究的な学習を通して課題を解決することができる。	・様々な事象に対して知的好奇心をもって科学的・数学的にとらえようしたり、新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦したりしようとする。 ・科学的、数学的な課題や事象に徹底的に向き合い考え抜こうとする。 ・問題解決の過程において、見通しを立てたり振り返ったりして主体的に探究を行おうとする。

算数・数学ワーキンググループにおける検討事項

1. 算数・数学を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・算数・数学を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた算数・数学において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・算数科・数学科において育成すべき資質能力と指導内容との関係について
 - ・統計的な内容等の充実について
2. アクティブ・ラーニング（※）の三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の指導等の改善充実の在り方について
3. 資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の評価の在り方について
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。



高等学校基礎学力
テスト(仮称)

【高等学校】

- ◎ 事象を数学化し、論理的に考察し、本質を明らかにするなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりするための知識・技能を身に付ける。
- ② 事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③ 数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断したり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
- それぞれの内容を生活と関連付けたり、生徒の疑問を取り上げたりするなど生徒の数学学習に対する関心や意欲を高める。
- 学習の過程を振り返り、本質を明らかにしたり学習内容を整理し直したりして、自ら見いだした問題を解決する活動を充実する。

【中学校】

- ◎ 事象を数学化し、論理的に考察するなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりするための知識・技能を身に付ける。
- ② 事象を数学を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③ 数学のよさを実感し、数学を生活や学習に活用して考えたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
- 問題解決に必要な情報を生徒自らが集めたり選択したりする活動や、帰納的に考えることなどから自ら決まりを見付ける活動、見いだした決まりを既習の内容を生かして演繹的に説明する活動を充実する。
- 既習の内容を振り返って関連を図ったり、新たに学んだ内容を用いると、どのようなことができるようになったのかなどについて明らかにしたりする活動を充実する。



全国学力・学習状況調査

【小学校】

- ◎ 算数の学習を生活や学習に活用するなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理するための知識・技能を身に付ける。
- ② 日常の事象を数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。
- ③ 数学のよさに気づき、算数の学習を生活や学習に活用したり、学習を振り返ってよりよく問題解決したりする態度を養う。
- 事象を数理的に考察したり、自分の考えを数学的に表現し処理したり、振り返ったりする学習活動を充実する。
- 具体物、図、数、式、表やグラフ相互の関連を図り、問題解決する学習活動を充実する。



- 【幼児教育】(教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)
- 生活や遊びの中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感に応じてこれらを活用するようになる。

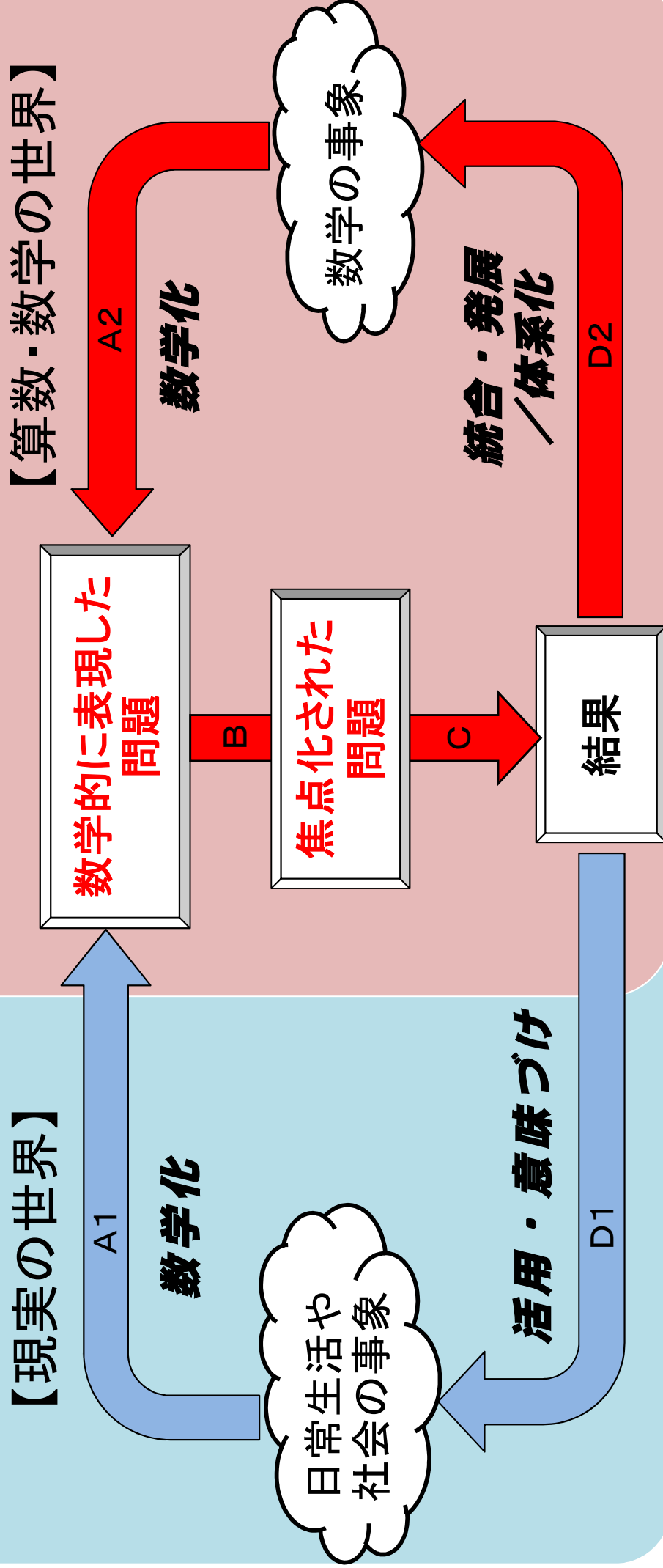
資質・能力の三つの柱に沿った、
資質・能力の育成について算数・数学科において育成すべき資質・能力の整理(案)

小・中・高等学校

個別の知識や技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力、人間性等		資質・能力の育成のために重視すべき学習過程の例*	
数理探究 (仮称) 高等学校	- 探究的な活動を自ら遂行するための知識・技能 - 既に有している知識・技能の活用及び探究を通じて得る内容に関する知識や探究に関する技能 - 探究を通じて新しい知見を得る意義についての認識 - 研究倫理（生命倫理を含む）についての基本的な理解	- 教科・科目の枠にとらわれない自由な視点で事象をとらえ、科学的・数学的な課題として設定することができる力 - 科学的なもの、考え方や数学的なものの見方・考え方を柔軟な発想で活用したり、組み合わせたりできる力 - 多様な価値観や感性を有する人々との議論等を積極的に、それを基に多面的に思考する力 - 探究的な学習を通じて課題解決を実現するための能力	- 事象を数学的に考察する力 - 既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考える力 - 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力	- 様々な事象に対して知的好奇心を持って科学的・数学的にとらえようとする態度 - 科学的、数学的課題や事象に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度 - 見通しを立てたり、振り返ったりするなど、内省的な態度 - 新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度 - 主体的・自律的に探究を行っていくために必要な研究に対する倫理的な態度	- 自然事象に対する気付き - 情報収集と分類 - 課題の設定 - 仮説の設定 - 検証計画の立案 - 観察・実験の実施 - 結果の処理 - 考察、推論 - 表現・伝達		
	数学 高等学校	- 数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解 - 事象を数学化したり、数学的に解釈・表現したりするための知識・技能 - 数学的な問題解決に必要な知識	- 事象を数学的に考察する力 - 既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考える力 - 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力	- 数学的な見方や考え方のよさ、数学の用語や記号のよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを認識し、事象の考察や問題の解決に数学を積極的に活用して、数学的論拠に基づいて判断する態度 - 問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度 - 多様な考えを生かし、よりよく問題解決する態度	- 疑問や問いの発生 - 問題の設定 - 問題の理解、解決の計画 - 計画の実行、結果の検討 - 振り返り - 新たな疑問や問い、推測などの発生		
数学 中学校	- 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解 - 事象を数学化したり、数学的に解釈・表現したりするための知識・技能 - 数学的な問題解決に必要な知識	- 日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力 - 既習の内容を基にして、数量や図形などの性質を見いだし、統合的・発展的に考える力 - 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力	- 数学的な見方や考え方のよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度 - 問題解決などにおいて、粘り強く考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度 - 多様な考えを認め、よりよく問題解決する態度	- 疑問や問いの発生 - 問題の設定 - 問題の理解、解決の計画 - 計画の実行、結果の検討 - 振り返り - 新たな疑問や問い、推測などの発生			
算数 小学校	- 数量や図形などについての基礎的な概念や性質などの理解 - 日常の事象を数理的に処理するために必要な知識・技能 - 数学的な問題解決に必要な知識	- 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考える力 - 基礎的・基本的な数量や図形の性質や計算の仕方を見いだし、既習の内容と結びつけ統合的に考えたり、そのことを基に発展的に考えたりする力 - 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力	- 数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、数学的な見方や考え方や数理的な処理のよさに気付くとき、算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする態度 - 数学的に表現・処理したことを振り返り、批判的に検討しようとする態度 - 問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとし、抽象的に表現されたことを具体的に表現しようとしたり、表現されたことをより一般的に表現しようとするなど、多面的に考えようとする態度	- 日常の事象の数学化による問題設定 - 解決の見通し、ねらいの明確化 - 解決の実行 - 解決したことこの検討 - 解決過程や結果の振り返り（概念の深まり、統合・発展）			

* 学習過程については、自立的に、ときに協働的に行い、それぞれに主体的に取り組めるようにする。

算数・数学の問題発見・解決のプロセス



日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統一的・発展的に考え、問題を解決することができる。

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

※各場面で、言語活動を充実

※これらのプロセスは、自立的にときに協働的に行い、それぞれに主体的に取り組めるようにする。

※それぞれのプロセスを振り返り、評価・改善することができるようにする。

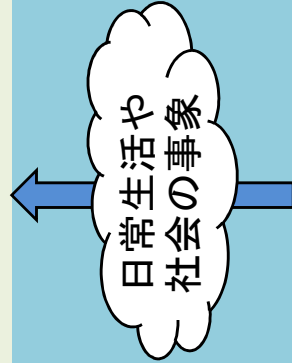
算数・数学における問題発見・解決のプロセスと育成すべき資質・能力

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

日常生活や社会の事象を数理的に捉え、
数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え、
問題を解決することができる。

A1 日常生活や社会の問題を数理的に捉えることについて
○事象の数量等に着眼して数学的な問題を見いだす力
○事象の特徴を捉えて数学的な表現を用いて表現する力(事象を数学化する力)



D1 解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすることについて
○得られた結果を元の事象に戻してその意味を考える力
○様々な事象に活用する力

数学的に表現した問題

B 数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てることについて
○数学的な問題の本質を見いだす力(洞察
力)
○数学的な問題を解決するための見通しを立てる力(構想力)

焦点化された問題

C 焦点化された問題を解決することについて
○目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理する力
○数学的な見方や考え方を基に、的確かつ能率的に処理する力
○論理的に推論する力(帰納、類推、演繹)

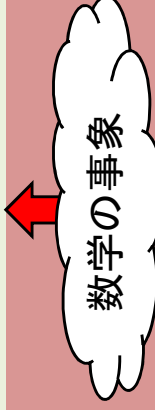
結果

E 数学的な表現を用いて、人々と交流し合うことについて
○数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりする力
○目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて説明する力

※これらの力は必ずしもこの位置のみに位置づけ
わけではない

A2 数学の事象における問題を数学的に捉えることについて

○数学の事象から問題を見いだす力
○事象の特徴を捉え、数学化する力
○得られた結果を基に拡張・一般化する力



D2 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすることについて

○数学的な見方や考え方のよさを見いだす力

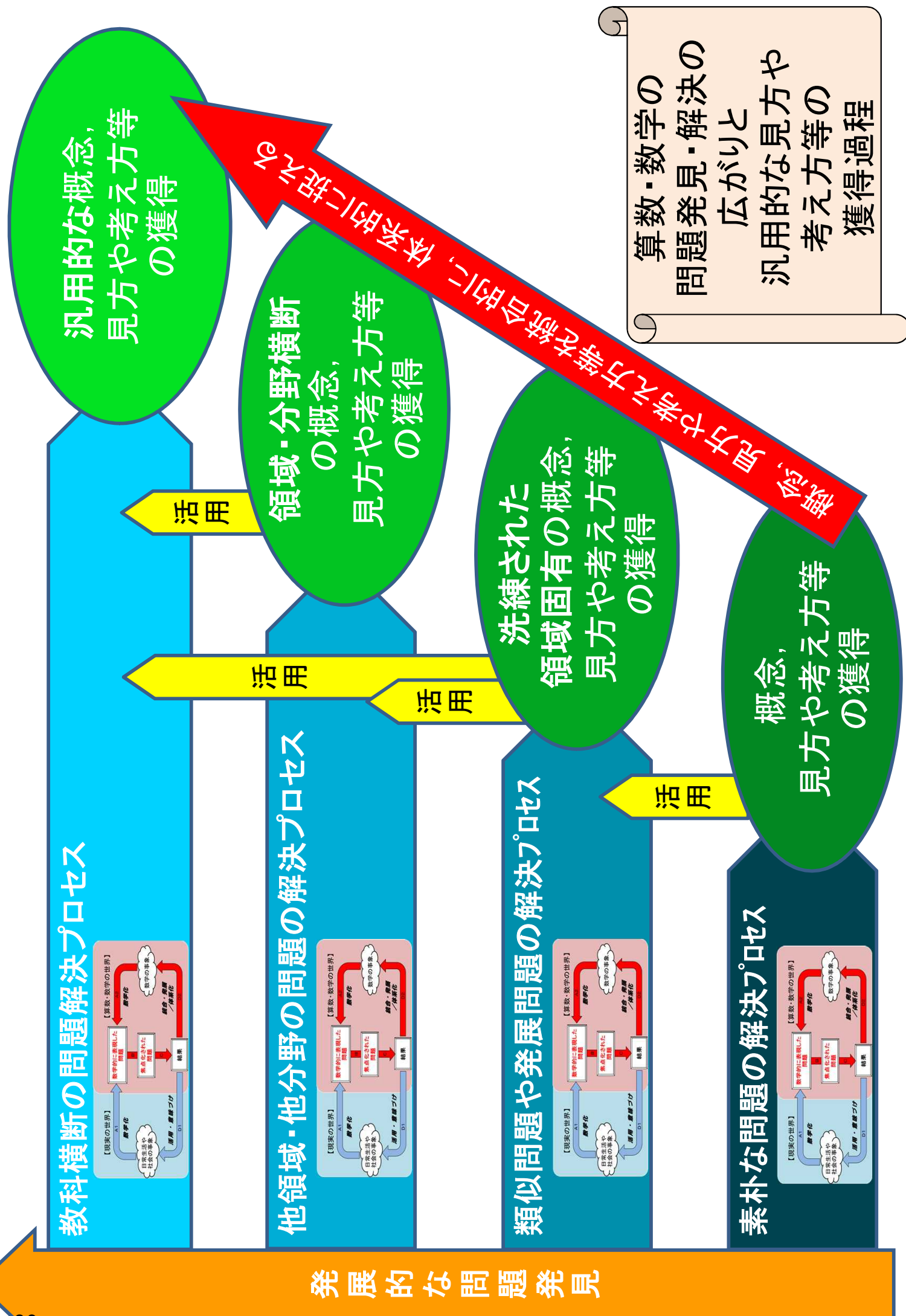
○得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていく力
○見いだした事柄を既習の知識と結びつけ、概念を広げたり深めたりする力
○統合的・発展的に考える力

思考・判断

表現

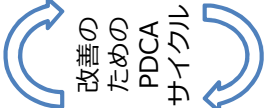
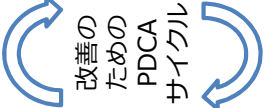
人間性

F 学習に向かう力、態度について
○過程や結果を吟味し、評価・改善する態度
○多面的に考え、粘り強く問題の発見や解決に取り組む態度



理科ワーキンググループにおける検討事項

1. 理科を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・理科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた理科において育成すべき資質・能力の系統性について
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき理科の指導等の改善充実の在り方について
3. 資質・能力の育成のために重視すべき理科の評価の在り方について
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について



【高等学校】

- 《発展:explore science》（Especially Science for Interested students:世界をリードする人材として）
- ◎ 科学的課題に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度を養う。科学的な探究能力を活用して、専門的な知識と技能の深化・統合化を図るとともに、自発的・創造的な力を養う。
 - 科学的な探究能力の育成を主体的に図ることができる「課題研究」を充実させる。（理数科、数理探究（仮称））

《応用:advanced science》（Science for Interested students:科学技術立国としての日本を支える人材として）

- ◎ 自然の事物・現象について、科学的に探究する能力と態度を養うとともに、論理的な思考力や創造性の基礎を養う。
- 「観察・実験」や「探究活動」を一層充実させて、科学的な探究能力（課題解決能力）の育成を図る。また、日常生活や他教科（数学、情報、保健体育、地理など）との関連を図る。

《基礎:basic science》（Science for All students:善良な市民として）

- ◎ 自然の事物・現象について、問題を明確にして課題を設定し、根拠に基づく結論や意思決定を導き出すことができる力を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養う。
- ①自然に対する畏敬の念を持ち、科学の必要性や有用性を認識するとともに、科学的根拠に基づき、多面的・総合的に判断する態度を養う。
- ②目的意識をもって観察・実験し、科学的に探究したり、科学的な根拠をもとに表現したりする力を養う。
- ③概念や原理・法則の体系的な理解と科学的探究についての理解や、探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能を養う。
- 中学校で身に付けた資質・能力を活用して、科学的な探究のプロセスを体験させる「観察・実験」や「探究活動」を充実させる。また、日常生活や他教科（数学、情報、保健体育、地理など）との関連を図る。

【中学校】

- ◎ 自然の事物・現象について、問題を明確にして課題を設定し、根拠に基づく結論を導き出す力を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養う。
- ①自然を敬い、自然の事物・現象にすんでかわかり、科学的に探究する態度と根拠に基づき判断し表現する態度を養う。
- ②目的意識をもって観察・実験し、得られた結果を分析・解釈する力を養う。
- ③概念や原理・法則の基本的な理解や観察・実験等の基本的な技能を養う。
- 小学校で身に付けた、比較、分類、関係付け、条件制御などの資質・能力をさらに高め、自然現象の把握、問題の設定、予想・仮説の設定、検証計画の立案、観察・実験の実施、結果の処理、考察・推論、表現等の学習活動を充実する。また、日常生活や他教科との関連を図る。
- 例えば、1年:自然の事物・現象に進んでかわかり、その中から問題を見いだす。2年:解決方法を立案して実行し、結果の妥当性を検討する。3年:問題解決過程のすべての過程を振り返り、その妥当性を検討する。

【小学校】

- ◎ 自然の事物・現象について、問題を見いだし、解決する力を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養う。
- ①自然を大切にし、生命を尊重する態度、科学的に探究する態度、妥当性を検討する態度を養う。
- ②見通しをもって的確に観察、実験などを行い、問題解決の能力を養う。
- ③自然の事物・現象についての理解を図り、観察・実験等の基本的な技能を養う。
- 観察・実験の結果を整理し表現する学習活動を充実する。また、日常生活や他教科との関連を図る。
- 問題解決の能力、例えば、3年:差異点や共通点に気づき問題を見いだす力、4年:既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する力、5年:質的变化や量的変化、時間の変化に着目して解決の方法を発想する力、6年:要因や規則性、関係を多面的に分析して考察し、より妥当な考えをつくりだす力を育成する学習活動を充実する。
- 目的を設定し、計測して制御するという考え方の学習活動を充実する。

（小学校低学年）

例えば、【生活科】

- 自然とのかかわりに関心をもち、自然を大切にしたり、その不思議さに気付いたりすることができる。
- 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち、自分たちの生活を工夫したり楽しんだりできる。
- 身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付く、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。
- 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていていることや成長していることに気付く、生きものの親しみをもち、大切にすることができるようにする。

【幼稚園】

（教育課程部会幼児教育部会において、本部会での議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

- ・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に関心を持ち、工夫したり、予想したり、多様な関わりを楽しむようになること、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
- ・自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。
- ・身近な動植物を命あるものとして、いたわり大切にすることをもち、自然の恵みを感じ、自然の恵みを受けとる。

理 科	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等	資質・能力の育成のために重視すべき学習過程等の例
高等学校	参考：＜選択科目：数理探究(仮称)＞ ●探究的な学習を自ら遂行するための知識・技能 ●既に有している知識・技能の活用及び探究を通じて得る内容に関する知識や探究に関する技能 ●探究を通して新しい知見を得る意義についての認識 ●研究倫理についての基本的な理解 ＜選択科目：数理探究(仮称)を含めない＞ ●知識・技能の深化 ●高等学校理科における概念や原理・法則の体系的理解 ＜必修修科目＞ ●高等学校理科における基本的な概念や原理・法則の体系的理解 ●科学的探究についての理解 ●探究のために必要な観察・実験等の技能	●教科・科目の枠にとらわれない自由な視点で事象をとらえ、課題として設定することができる力 ●科学的なものの見方・考え方や数学的なものの見方・考え方を柔軟な発想で活用したり、組み合わせたりできる力 ●多様な価値観や感性を有する人々との議論を積極的にに行い、それを基に多面的に思考する力 ●探究的な学習を通じて課題解決を実現するための能力 ●課題解決能力（論理的・分析的・統合的に考察する力） ●新たなものを創造しようとする力	●様々な事象に対して知的好奇心をもって科学的・数学的にとらえようとする態度 ●科学的、数学的課題や事象に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度 ●見通しを立てたり、振り返ったりするなど、内省的な態度 ●新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度 ●主體的・自律的に探究を行っていくために必要な研究に対する倫理的な態度 ●果敢に挑戦する態度 ●科学的に探究する態度 ●科学に対する倫理的な態度 ●自然の事物・現象に対する畏敬の念 ●諦めずに挑戦する態度 ●日常生活との関連、科学の必要性や有用性の認識 ●科学的根拠に基づき、多面的・総合的に判断する態度 ●中学校で身に付けた課題解決の力などを活用しようとする態度	自然事象に対する 気付き 課題の設定 仮説の設定 検証計画の立案 観察・実験の実施 結果の処理 考察・推論 表現・伝達 見通し 振り返り
中学校	○中学校理科における基本的な概念や原理・法則の体系的理解 ○科学的探究についての基本的な理解 ○探究のために必要な観察・実験等の基礎的な技能（安全への配慮、器具などの操作、測定の方法、データの記録・処理等）	○自然事象の中に問題を見いだして仮説を設定する力 ○計画を立て、目的意識をもって観察・実験する力 ○得られた結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する力と科学的な根拠をもとに表現する力 ○問題解決の過程における妥当性を検討するなど総合的に振り返る力	○自然を敬い、自然の事物・現象にすんなりかわかる態度 ○粘り強く挑戦する態度 ○日常生活との関連、科学することの面白さや有用性の気付き ○科学的根拠に基づき的確に判断する態度 ○小学校で身に付けた問題解決の力などを活用しようとする態度	自然事象に対する 気付き 課題の設定 仮説の設定 検証計画の立案 観察・実験の実施 結果の処理 考察・推論 表現 見通し 振り返り
小学校	■自然事象に関する性質や基本的な概念、規則性などの体系的理解 ■理科を学ぶ意義の理解 ■科学的に問題解決を行うために必要な観察・実験等の基礎的な技能（安全への配慮、器具などの操作、測定の方法、データの記録等）	(各学年で主に育てたい力) 6年：自然の事物・現象の変化や働きについてその要因や規則性、関係を多面的に分析し考察して、より妥当な考えをつくりだす力 5年：予想や仮説などをもとに質的变化や量的変化、時間的变化に着目して解決の方法を発想する力 4年：見いだした問題について既習事項や生活経験をもとに根拠のある予想や仮説を発想する力 3年：比較を通して自然の事物・現象の差異点や共通点に気付き問題を見いだす力	■自然に親しむ態度 ■失敗してもくじけずに挑戦する態度 ■科学することの面白さ ■科学的な根拠に基づき判断する態度 ■問題解決の過程に関してその妥当性を検討する態度 ■知識・技能を実際の自然事象や日常生活などに適用する態度 ■多面的、総合的な視点から自分の考えを改善する力	自然事象に対する 気付き 問題の見だし 予想・仮説の設定 検証計画の立案 観察・実験の実施 結果の整理 考察や結論の導出 見通し 振り返り

理科の各領域における特徴的な見方 (20160309 案)

- 1 科学の目的
- 科学の目的は、自然事象を説明できる法則や理論を構築していくこと
- 2 理科の各領域における特徴的な見方を考える前提：法則や理論の構築という視点から整理することが必要

表 1 理科の各領域における特徴的な見方

	領域			
	エネルギー	粒子	生命	地球
見方・考え方	自然の事物・現象を主として <u>量</u> <u>的・関係的な視点</u> で捉える	自然の事物・現象を主として <u>質</u> <u>的・実体的な視点</u> で捉える	生命に関する自然の事物・現象を 主として <u>多様性と共通性の視点</u> で 捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・ 現象を主として <u>時間的・空間的な</u> <u>視点</u> で捉える
	* 高等学校では、事象をより包括的・ 高次的に捉える	* 中学校から実体はあるが見えない (不可視) レベルの原子, 分子レベル で事象を捉える * 高等学校では、事象をより包括的・ 高次的に捉える	* 「分子～細胞～個体～生態系レベ ル」の階層性があり, 小・中・高と上 がるにつれて扱う階層が広がる	* 「身のまわり～地球～宇宙レベル」 の階層性があり, 小・中・高と上がる につれて扱う階層が広がる
	学校段階の違い (内容の階層性の広がり)			
小 学 校	「見える (可視) レベル」	「物レベル」	「個体～生態系レベル」	「身のまわり (見える) レベル」
中 学 校	「見える (可視) ～見えない (不可視) レベル」	「物～物質レベル」	「細胞～個体～生態系レベル」	「身のまわり (見える) ～地球 (地球 周辺) レベル」
高等学校	「見える (可視) ～見えない (不可視) レベル」	「物質レベル」 (マクロとミクロの視 点)	「分子～細胞～個体～生態系レベル」	「身のまわり (見える) ～地球 (地球 周辺) ～宇宙レベル」

表2 理科の各領域における特徴的な見方の整理例

20160309

		領域			
		エネルギー	粒子	生命	地球
見方		自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉える	自然の事物・現象を主として質的・実体的な視点で捉える	生命に関する自然の事物・現象を主として多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉える
小学校 【対象を分節化しない】		自然の事物・現象を「見える（可視）レベル」において、主として量的・関係的な視点で捉える 例：豆電球の明るさについて、電池の数（量）や直列・並列つなぎの関係で捉える	自然の事物・現象を「物レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉える 例：形が変わっても重さは変わらないことから実体として存在することを捉える	生命に関する自然の事物・現象を「個体～生態系レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える 例：昆虫や植物の成長や体のつくりについて、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり（見える）レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える 例：土地のつくりや変化について、侵食・運搬・堆積の関係を時間的・空間的な視点で捉える
中学校 【対象を主に再現性が高いもの（エネルギー粒子）と、主に再現性が低いもの（生命、地球）に分節化する】		自然の事物・現象を「見える（可視）レベル～見えない（不可視レベル）」において、主として量的・関係的な視点で捉える 例：電気に関する現象について、電流、電圧、抵抗（量）の関係をオームの法則の関係で捉える	自然の事物・現象を「物～物質レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉える 例：物質やその変化について、原子や分子を化学変化で実体的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「細胞～個体～生態系レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える 例：植物や動物の体のつくりと働きについて、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり（見える）～地球（地球周辺）レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える 例：地層の重なりについて、時間的・空間的な視点で捉える
高等学校 【対象をエネルギー粒子、生命、地球に分節化する】		自然の事物・現象を「見える（可視）レベル～見えない（不可視レベル）」において、主として量的・関係的な視点で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える 例：電気抵抗に関する現象について、物質の違いから包括的・高次的に捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える 例：物質の構成粒子について、原子の構造や電子配列から包括的・高次的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「分子～細胞～個体～生態系レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える 例：生物と遺伝子について、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり（見える）～地球（地球周辺）～宇宙レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える 例：プレート運動や火山活動と地震について、時間的・空間的な視点で捉える

学習活動例(主体的な課題解決)

見通しと振り返りの例

課題把握(発見)

自然事象に対する気付き

課題の設定

課題探究

仮説の設定

見通し

検証計画の立案

観察・実験の実施

結果の処理

課題解決

考察・推論

振り返り

表現・伝達

理科における資質・能力の例

- 主体的に対象とかかわろうとしたり、観察しようとする態度
- 対象を観察し、必要な情報を抽出・収集する力
- 抽出・収集した情報について、それらの関係性(共通点や相違点など)や傾向を見いだす力

- 見出した関係性や傾向から、課題を設定する力

- 見通しを持ち、検証できる仮説を設定する力

- 仮説を確かめるための観察・実験の計画を立案する力
- 観察・実験の計画を評価・選択・決定する力

- 観察・実験を実行する力

- 観察・実験の結果を処理する力

- 観察・実験の結果を分析・解釈する力
- 情報収集して仮説の妥当性を検討したり、考察したりする力
- 全体を振り返って推論したり、改善策を考えたりする力
- 新たな知識やモデル等を創造したり、次の課題を発見したりする力

- 考察・推論したことや結論を発表したり、レポートにまとめたりする力

協働的な学びの例

意見交換・議論

意見交換・議論

意見交換・議論

意見交換・議論

調査

意見交換・議論

意見交換・議論

研究発表
相互評価

次の課題解決のプロセス

- *1 課題解決の過程は、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では、そのプロセスの一部のみを扱ってもよい。
- *2 全ての学習過程において、**今までに身に付けた資質・能力や既習の知識・技能を活用する力が求められる。**
- *3 **意見交換や議論の際には、あらかじめ個人で考えたりすることが重要である。また、他者とかかわりの中で合意を形成したり、自分の考えを修正したりする力が求められる。**

資質・能力の育成のために重視すべき理科の評価の在り方について（案）【たつき台】

表：各教科等の評価の趣旨

評価の観点（論点整理）		個別の知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高等学校	理科	・自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	・自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、獲得した知識・技能を日常生活や社会に生かそうとしている。
中学校	理科	・自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	・自然の事物・現象の中に問題を見いだし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	・自然の事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探究しようとするともに、獲得した知識・技能を日常生活に生かそうとしている。
小学校	理科	・自然の事物・現象を観察し、実験を計画的に実施し、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、それらの過程や結果を的確に記録することができ ・自然の事物・現象の性質や規則性、相互の関係などについて理解している。	・自然の事物・現象から問題を見いだしたり、既習事項や生活経験をもとに予想や仮説、解決の方法を予想したり、得られた結果を予想などと比べながら妥当な考えをつくりだしたりして、考察し表現しながら問題を解決している。	・自然に親しみ、積極的に自然の事物・現象を調べようとするともに、獲得した知識・技能を身の回りの自然の事物・現象に生かそうとしている。